消防の広域化

広域化による消防力強化！富山県東部消防組合誕生

富山県　富山県東部消防組合

富山県東部消防組合は、魚津市、滑川市、上市町、舟橋村の２市１町１村で構成する管轄人口約10万４千人、管轄面積約496㎢、１本部・３消防署、職員数110名、緊急車両37台を有する一部事務組合として平成25年１月25日に発足しました。

組合を構成する市町村を紹介させていただきます。

魚津市は、豊かな日本海に面し、東にはなだらかな山容の僧ヶ岳、万年雪を抱く毛勝山などの北アルプスが広がります。これらの山々を源として、片貝川、布施川、早月川や角川などの河川が、市内を潤しながら富山湾に注いでいます。富山県東部の行政、経済、教育、文化の諸機能が集積された中心都市として発展しています。

滑川市は、壮大な山嶺を連ねる北アルプスを背景に加積山麓階とよばれる旧扇状地の台地や上大浦を扇頂に扇端が海岸線に広がる新扇状地などによって構成されている田園都市で、かつて北陸街道の宿場町として栄え、近年では大型企業の立地が相次ぐなど、工業都市として発展しています。

上市町は、古くから物資流通の中心地として「市（いち）」が栄え、現在は、米作を中心とした農業と、繊維・薬品・精密部品などの製造業を中心とする工業とが見事に調和された、緑豊かな田園工業都市です。

名峰剱岳は、多くのクライマーの憧れです。

舟橋村は、富山県内唯一の村で、全国の自治体の中で一番面積の小さい自治体として知られ、近年ベッドタウン化が進み、人口･世帯数ともに大幅に増加しています。

今回の消防広域化により、非常備消防が解消されました。

構成市町村位置図

広域化までの経緯と富山県東部消防組合の概要

消防は、近年の災害や事故の多様化及び大規模化、人口の減少・高齢化、都市構造の複雑化、住民ニーズの高度化･多様化等、消防を取り巻く社会環境が大きく変化している中で、住民の安全･安心を守るという責務を十分に果たしていくため、今まで以上に効果的効率的な消防体制の確立が急務となっています。

国は、住民の安全･安心を守るという消防に課せられた責任を確実に果たしていくためには、市町村の消防広域化を推進する必要があることから、平成18年６月に消防組織法を改正し、同年７月に「市町村の消防の広域化に関する基本指針」を策定しました。この基本指針により、富山県は平成20年３月に「富山県消防広域化推進計画」を策定し、その中で広域

富山県東部消防組合開所式

化の組合せ案が複数パターン示されました。

これらを受け、当初は富山県県東部の８市町村（人口21万人)、平成22年７月からは、７市町村による「富山県東部消防広域化任意運営協議会」により検討を進めてきました。最終的には、住民にとって消防広域化はそのメリットが十分期待できるとして、魚津市、滑川市、上市町、舟橋村の４市町村により「富山県東部消防広域化協議会」を設置し、協議を進め、平成25年１月25日に富山県知事から「富山県東部消防組合」の設置が許可され、平成25年３月31日に消防事務がスタートしました。

広域化によるメリット

広域化後は、災害初期の段階から広域エリア内における効果的な部隊活動を構築し、初動部隊の増強を図るとともに、２次出動体制が充実するなど消防力の増強が図れ、集結時間が短縮されました。

旧３消防本部の統合により、総務部門の人員減が図られた一方で、各消防署に危険物規制事務、消防同意事務や予防査察などを行う予防要員を配置することにより、予防業務の充実強化を図ることができました。

指令業務については、広域化時点では指令台が統合されていないため各消防署にて指令業務を行っていますが、平成25年度中に高機能指令センターを建設、指令台Ⅱ型を整備し、平成26年度に消防救急無線のデジタル化整備がされると、迅速・確実な部隊運用が可能になり、災害現場直近の署所から出動できるため、現場到着時間が短縮される見込みです。また、指揮命令系統の一元化が図られることから効果的な部隊運用が可能となり、消防体制のさらなる充実強化が図られることになります。

おわりに

富山県東部消防組合管轄地は、自然が豊かで山から海までと活動幅が広く、防災関係機関との連携が不可欠となっています。海難事故は潜水隊及び救助艇雄山丸と海上保安部との合同訓練、山岳事故は富山県警山岳警備隊及び防災航空隊との合同訓練の実施により、連携強化、救助技術の向上を図っています。これからも組合職員としての一体感を醸成し、住民が住みなれた地域で安全に安心して暮らせるよう、消防体制の整備に万全を尽くしていきます。

富山県東部消防組合消防本部庁舎